

NST、院内感染など計36題で、各セッションとも活発な討論が行われました。また、特別講演として、東大宮総合病院院長坂本副郎先生に「病院をディズニーランドにしよう～ディズニーランドに学ぶ人材育成と組織戦略～」と題する、ユニークな講演をして頂きました。病院を遊園地にしようということではなく、企業としてのディズニーランドが世界でも有数の組織であり、病院経営にその手法が多いに参考になるという話で、非常に印象に残り有意義な会になりました。

次回、第6回は、高知県立安芸病院院長森田英雄先生の担当で開催予定です。

第3回広島支部総会

支部長：県立広島病院院長 大濱紘三



会場風景

平成19年9月1日(土)、広島大学霞キャンパスの広仁会館で第3回広島支部総会を開催しました。基調講演として徳島県病院事業管理者：塩谷泰一先生をお招きし、「病院医療はどこへ行く」と題し、坂出市立病院・徳島県立3病院での取り組みについて話を

頂きました(座長：県立広島病院院長 大濱紘三)。医療安全シンポジウム(座長：JA広島総合病院院長 角 重信)では「平成20年4月からの立会い規制が及ぼす影響」のテーマで、広島支部が実施したME(CE)の役割状況のアンケート集計報告(発表：国家公務員共済組合連合会吉島病院長 倉岡敏彦)の後に、医師、CE、医療機器メーカー、ディーラーなど6名のシンポジストが、病院や企業の立場を代表して立会いの現状・今後の課題・臨床における問題点を発表し、参加者も含めて活発なディスカッションが行なわれました。広島支部が活動を行っている4分科会(SPD分科会、DPC分科会、人事考課分科会、医療安全分科会)の活動報告では、会場参加者に今後の分科会活動方針を発信しました。当日は定員200名を超える213名の参加者があり、多くの関係者の支援と協力のお蔭で盛会の内に第3回広島支部総会を終了することができました。(文責：広島支部事務局長補佐 曾田剛史)

第1回三重地方会

学術集會会長：国立病院機構三重中央医療センター院長 新谷宇一郎



会場風景

平成19年9月15日(土)、三重中央医療センター研修棟会議室にて日本医療マネジメント学会第1回三重地方会が開催されました。当日は県内のほとんどの医療機関から141名の参加があり盛況な第1回地方会となりました。今回は決定から開催

まで短期間であったにもかかわらず、一般演題にDPC、医療安全、感染対策、電子カルテなどに関して16演題の応募があり活発な討論が持たれました。特別講演では日本医療マネジメント学会理事長の宮崎久義先生が「クリティカルパスの普及と新たな展開」と題してクリティカルパスの誕生から今日の日本医療マネジメント学会発展までの歴史的なお話や地域連携も含めた今後のクリティカルパスの展開について判りやすく解説

いただきました。閉会後は宮崎先生が参加者から資料冊子にサインを求められる一幕もあり好評のうちに第1回の三重地方会を終えることができました。今後は本学会の活動を通して三重県における更なる医療の標準化、質の向上を目指して努力して行きたいと考えております。

(文責：国立病院機構三重中央医療センター 小児科医長、医療情報室長 田中滋己)

第4回鳥取地方会

学術集會会長：鳥取赤十字病院病院長 福島明



会場風景

平成19年9月22日(土)、鳥取県立県民文化会館に於いて「今求められる医療のあり方～すべては患者のために・医療の安全と連携～」をテーマとして学術集會を開催しました。

シンポジウム1として「鳥取県における医療連携の現状と課題」と題して行政からは医療計画について、各施設からはITを活用した医療連携ネットワークの構築や施設間の連携協議会の取り組み、大腿骨頸部骨折や終末期医療などにおける連携の実践について発表・討議が行われました。さらにシンポジウム2として「新人看護師をいかに育成するか」では、行政や日本看護協会から新人看護職員研修に対する取り組みについて解説され、新人看護師を受け入れる施設と新人看護師の立場からも問題提起がなされました。他には医療安全に関連した特別講演1題、一般演題44題、クリティカルパス展示22題の合計78題の演題発表と県内外から合計311名の参加があり、熱心な討議が行われました。

(文責：鳥取赤十字病院外科副部長 柴田俊輔)

第7回北海道地方会

学術集會会長：国立病院機構札幌南病院院長 飛世克之



会場風景

第7回北海道地方会学術集會が、平成19年10月13日(土)に、札幌コンベンションセンターにおいて開催されました。

今年一番の寒さでしたが、多くの職種から131名の参加がありました。メインテーマを「良質で安全な医療の提供」とし、一般演題24題の発表がありました。地域連携クリティカルパス、医療データの管理・解析、医療安全対策、医療安全教育、NSTなど多彩な分野で活発な討論が行われました。ランチョンセミナー(大塚製薬工場後援)では、北美原クリニック理事長の岡田晋吾先生に「NSTと地域連携」の演題でご講演をいただきました。NSTをキーワードに地域連携の輪を広げるといふ試みの具体例は大変参考になりました。次いで、特別講演として、聖路加看護大学学長の井部俊子先生より、「良質な医療サービスと管理者の責任」のご講演をいただきました。チーム医療の大切さと問題点を明らかにしていただきました。今後も本学会の活動を通じて、「良質で安全な医療の提供」の推進に寄与していきたいと考えています。

(文責：国立病院機構札幌南病院 診療部長 菊地誠志)